# 令和５年度　公立学校教員採用候補者選考試験問題

小　学　校



注意　・答はすべて解答用紙の解答欄に記入すること。
・本問題では、小学校学習指導要領（平成29年告示）を「指導要領」、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説を「指導要領解説」とする。

**第１問題　国語科について、次の問に答えよ。**

問１　次は、指導要領「第２章　第１節　国語　第１　目標」である。［ア］、［イ］にあてはまる語句をA～Dから選び、記号で答えよ。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 日常生活に必要な国語について、その［ア］を理解し適切に使うことができるようにする。
(2) 日常生活における人との関わりの中で［イ］を高め、思考力や想像力を養う。
(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

A　意義　　B　伝え合う力　　C　ことばの力　　D　特質

問２　次は、指導要領「第２章　第１節　国語　第２　各学年の目標及び内容〔第５学年及び第６学年〕２　内容〔知識及び技能〕(2)」の一部である。［ウ］、［エ］にあてはまる語句をA～Dから選び、記号で答えよ。

ア　［ウ］など情報と情報との関係について理解すること。
イ　情報と情報との関係付けの仕方、図などによる［エ］の表し方を理解し使うこと。

A　理由や事例　　B　語句と語句との関係　　C　原因と結果　　D　比較や分類

問３　「言葉遣い」について、次の（1）、（2）に答えよ。

（1）次は、指導要領解説「国語編」における各学年の「言葉遣い」に関する事項を示したものである。〔第５学年及び第６学年〕の内容に該当するものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A　敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
B　丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。
C　敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。
D　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。

（2）次の例文で使われている敬語の種類を漢字で答えよ。

学校に市長がいらっしゃる。

問４　指導要領「第２章　第１節　国語　第２　各学年の目標及び内容〔第５学年及び第６学年〕２　内容〔思考力、判断力、表現力等〕B　書くこと」において、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することとしてどのようなことが示されているか、一つ記せ。



2025 kyosai-guild.jp

問5　次は、指導要領解説「国語編」における各学年の書写に関する事項を示したものである。〔第3学年及び第4学年〕の内容に該当するものをA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。

B　点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。

C　目的に応じて使用する筆記用具を選び、その特徴を生かして書くこと。

## 第2問題　社会科について、次の問に答えよ。

問1　次は、指導要領「第2章　第2節　社会　第2　各学年の目標及び内容〔第3学年〕　1　目標」の一部である。［ア］～［ウ］にあてはまる語句をA～Hから選び、記号で答えよ。

(1) 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、［ア］や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的事象の［イ］、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を［ウ］する力、考えたことや［ウ］したことを表現する力を養う。

A　年表　　B　説明　　C　地図帳　　D　役割　　E　選択・判断

F　議論　　G　写真　　H　特色や相互の関連

問2　第3学年で「身近な地域や市区町村の様子」の学習を行った。資料1は地域の地図を用いた学習の一場面である。後の（1）、（2）に答えよ。

資料1

T　：駅の周りにはどのような施設がありますか。

C1：①警察署があります。病院もあります。

C2：うちの家族が買い物によく行くスーパーマーケットもあります。

T　：駅の周りはみんな行くことがあるから、よく知っていますね。

T　：では少し学校から離れているけど、西側の川の周りの様子はどうなっていますか。

C3：②＜って記号が書いてあります。この記号は何を表しているのかな。

（Tは教師の発言、Cは児童の発言を示す。）

（1）下線部①の地図記号を示せ。また、下線部②の地図記号が表すものを答えよ。

（2）地図の方位について、方位記号の南東方向に○印を付けよ。

問3　第4学年での「自然災害から人々を守る活動」について、指導要領解説「社会編」に基づき、次の（1）、（2）に答えよ。

（1）「自然災害から人々を守る活動」について指導するにあたり、適切なものをA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　地域の人々の安全な生活の維持と向上を図るための法やきまりを扱うようにする。

B　自然災害と国土の自然条件との関連を通して国土の地理的環境を理解できるようにする。

C　県庁や市役所が、消防署や警察署、国の関係機関とも連携・協力して人々の安全を守る活動を行っていることに気付かせる。

（2）自然災害について、どのようなものを選択して取り上げるよう示されているか、記せ。

問4　地震などの災害での被害を予想し、被害のおそれのある地域や避難に関する情報を載せた地図を何というか、答えよ。



2025 kyosai-guild.jp

**第3問題　算数科について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領「第2章 第3節 算数 第1 目標」の一部である。後の（1）、（2）に答えよ。

> 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き、学習を振り返ってよりよく［ア］しようとする態度、算数で学んだことを生活や学習に［イ］とする態度を養う。

（1）［ア］、［イ］にあてはまる語句をA～Fから選び、記号で答えよ。

A　表現　　B　問題解決　　C　課題解明　　D　利用しよう　　E　取り入れよう　　F　活用しよう

（2）指導要領「第2章 第3節 算数 第2 各学年の目標及び内容 第1学年 2 内容」の〔数学的活動〕として適切なものをA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　身の回りの事象を観察したり、具体物を操作したりして、数量や図形に進んで関わる活動

B　日常の事象から見いだした算数の問題を、具体物、図、数、式などを用いて解決し、結果を確かめる活動

C　問題解決の過程や結果を、具体物や図などを用いて表現する活動

問2　第1学年で減法の学習を行った。次の<問題>を解くとき、後の（1）、（2）に答えよ。

> <問題>
> かきが　13こ　なって　います。
> 9こ　とると、なんこ　のこりますか。

資料2　授業記録（第1学年「ひきざん (2)」の学習の一場面である。）

> T　：どんな式になりますか。
> C1：13－9になると思います。
> T　：なぜ13－9になると思いますか。
> C2：［　　ウ　　］です。
> C3：取ったらへるからです。
> T　：いままでのひき算と違うところはどこですか。
> C4：3から9が引けないところです。
> C5：ばらからは引けないところです。
> T　：ばらから引けないときの計算の仕方を考えましょう。　　（Tは教師の発言、Cは児童の発言を示す。）

（1）C2はこの問題の式が13－9となる適切な理由を述べた。［ウ］にあてはまる理由をA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　残りを聞かれているから

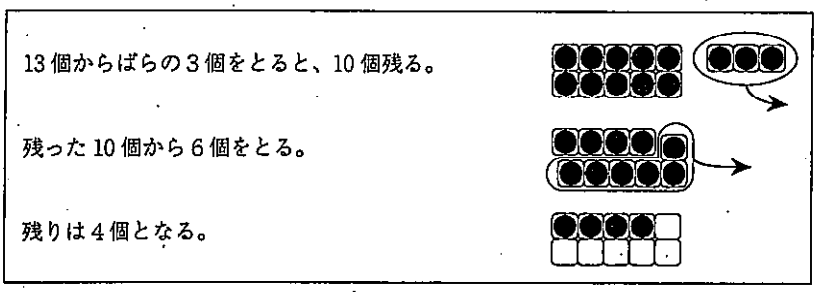
B　小さい方を聞かれているから

C　違いを聞かれているから



2025 kyosai-guild.jp

（2）次の図は「13－9」を減々法を用いて行ったときの計算の仕方を表す言葉とブロック図である。この図を参考に、「13－9」を減加法を用いて行ったときの計算の仕方を表す言葉とブロック図を記せ。




問3　次は、指導要領解説「算数編 第3章 第2節 2 第2学年の内容 D (1) ア (7)」の一部である。［エ］、［オ］にあてはまる語をA～Fから選び、記号で答えよ。

身の回りにある数量について、［エ］して簡単な表やグラフに表すことで特徴が捉えやすくなる。ここでいう簡単な表とは、［オ］が一つの表である。

A　検討考察　　B　調査集約　　C　分類整理　　D　項目　　E　観点　　F　データ

**第4問題　理科について、次の問に答えよ。**

問1　次の（1）、（2）に答えよ。

（1）次は、指導要領解説「理科編 第2章 第1節 教科の目標」の一部である。［ア］～［ウ］にあてはまる語の組み合わせとして適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

「科学的」ということは、これらの条件を検討する手続きを重視するという側面から捉えることができる。つまり、「問題を科学的に解決する」ということは、自然の事物・現象についての問題を、［ア］、［イ］、［ウ］などといった条件を検討する手続きを重視しながら解決していくということと考えられる。

A　ア　実証性　　イ　論理性　　ウ　客観性
B　ア　実証性　　イ　再現性　　ウ　客観性
C　ア　実証性　　イ　再現性　　ウ　合理性
D　ア　専門性　　イ　再現性　　ウ　合理性

（2）小学校理科では、指導要領解説「理科編 第2章 第1節 教科の目標」において、学年を通して育成を目指す問題解決の力を、それぞれの学年で示している。第6学年で育成を目指す問題解決の力として適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A　より妥当な考えをつくりだすといった問題解決の力
B　差異点や共通点を基に、問題を見いだすといった問題解決の力
C　予想や仮説を基に、解決の方法を発想するといった問題解決の力
D　既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想するといった問題解決の力



2025 kyosai-guild.jp

問２　第６学年の理科で「燃焼の仕組み」を調べるため、実験①から実験③を実施した。図１～３は、その実験の様子を示したものである。次の（１）、（２）に答えよ。

（１）気体による燃え方のちがいを調べるため、図１の実験①において集気びんに入れる気体を変えて火のついたろうそくを入れる実験を実施したところ、酸素と二酸化炭素の実験結果は右のとおりであった。

<酸素と二酸化炭素の実験結果>
酸素：ほのおが明るく、激しく燃えた。
二酸化炭素：［　エ　］

二酸化炭素の実験結果として［　エ　］にあてはまるものをＡ～Ｄから一つ選び、記号で答えよ。

Ａ　ほのおが明るく、激しく燃えた。
Ｂ　びんに入れると、一定時間後に火が消えた。
Ｃ　びんに入れると、ろうそくがなくなるまで燃え続けた。
Ｄ　びんに入れると、すぐに火が消えた。

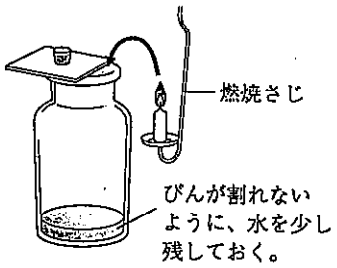


図１　実験①の様子

（２）ものが燃えるときの空気の変化を調べるため、ものを燃やす前後のびんの中の空気に含まれる酸素と二酸化炭素について、図２のとおり気体検知管を用いて調べる実験（実験②）を実施した。なお、実験②の結果は表１のとおりである。

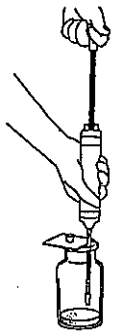


図２　実験②の様子

表１

| | 酸素 | 二酸化炭素 |
|---|---|---|
| 燃焼前 | 約 21％ | 約 0.03％ |
| 燃焼後 | 約 17％ | 約３％ |

実験①、実験②の後、それらの実験結果に基づき「蓋をした集気びんの中で、ろうそくの火が消える原因」について話し合ったところ、以下のように児童が予想した。

<児童Ａの予想>
集気びんの中のろうそくの火が消えたのは、二酸化炭素が増えたからである。
<児童Ｂの予想>
集気びんの中のろうそくの火が消えたのは、酸素が減ったからである。

上記の児童たちの予想に基づき、以下の実験③を実施した。

図３のとおり、集気びんの中の気体を酸素と二酸化炭素で半分ずつとして、火のついたろうそくを入れた。

<実験結果>　ほのおが明るく、激しく燃えた。

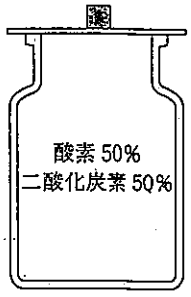


図３　実験③の集気びんの気体の割合

実験①から実験③の実験結果を根拠にして、蓋をした集気びんの中で、ろうそくの火が消える原因を記せ。



2025 kyosai-guild.jp

問３　第６学年の理科で「てこの規則性」を調べる授業において、児童が以下のような疑問を抱いた。

＜児童の疑問＞
図４のように左右異なる位置、重さで水平につり合っている実験用てこに、それぞれ同じ位置に１個ずつおもりを追加したらどうなるだろうか。

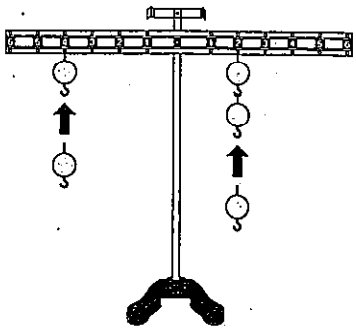


図４　実験用てこの様子

児童の疑問に基づき、このてこの左右のおもりの下に、さらに１個ずつおもりをつるした実験の結果として適切なものをＡ～Ｃから一つ選び、記号で答えよ。また、その理由を説明せよ。なお、おもりの重さはすべて同じものである。

Ａ　左にかたむく
Ｂ　右にかたむく
Ｃ　水平につり合う

**第５問題　生活科について、次の問に答えよ。**

問１　次は、指導要領「第２章　第５節　生活　第２　各学年の目標及び内容　２　内容」の一部である。［　ア　］、［　イ　］にあてはまる語句をＡ～Ｆから選び、記号で答えよ。

(4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りには［　ア　］ものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする。
(6) 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや［　イ　］に気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

Ａ　自然の不思議さ　　Ｂ　物の特徴　　Ｃ　季節感
Ｄ　自由に遊べる　　Ｅ　みんなで使う　　Ｆ　生活を豊かにする

問２　指導要領解説「生活編　第４章　指導計画の作成と内容の取扱い　１　指導計画作成上の配慮事項」に示されている内容として適切なものをＡ～Ｄから一つ選び、記号で答えよ。

Ａ　児童の発達段階や特性を踏まえ、それぞれの学年独自の学習活動を編成すること。
Ｂ　幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。
Ｃ　小学校生活に早く適応できるように、入学当初から45分間の授業に慣れるようにすること。
Ｄ　スタートカリキュラムは、児童をよく理解している担任が編成し、実践すること。



2025 kyosai-guild.jp

第6問題　音楽科について、次の問に答えよ。

問1　次は、指導要領「第2章 第6節 音楽 第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕 2. 内容 A 表現 (1)」の一部である。［　　］にあてはまる語句を答えよ。

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつこと。
イ　曲想と［　　］や歌詞の内容との関わりについて気付くこと。

問2　図5は第4学年の共通教材「もみじ」の楽譜の一部である。この部分を指導する際に児童の思考・判断のよりどころとなる主な「音楽を形づくっている要素」は何に設定したらよいか、適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

図5

A　呼びかけとこたえ　　B　速度　　C　強弱　　D　音の重なり

第7問題　図画工作科について、次の問に答えよ。

問1　次は、指導要領解説「図画工作編 第2章 第2節 図画工作科の内容 1 内容の構成」の一部である。［　　］にあてはまる語句を答えよ。

「A表現」には (1) と (2) の二つの項目を設けている。 ……（中略）…… (1) と (2) のどちらの項目も、アは、［　　］をする活動に関する事項、イは、絵や立体、工作に表す活動に関する事項を示している。

問2　指導要領解説「図画工作編 第4章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」に示された材料や用具のうち、〔第1学年及び第2学年〕で取り扱うこととしているものを、ア～ウから一つ選び、記号で答えよ。

ア　針金、糸のこぎりなど
イ　簡単な小刀類など身近で扱いやすいもの
ウ　小刀、使いやすいのこぎり、金づちなど



2025 kyosai-guild.jp

**第8問題　家庭科について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領解説「家庭編　第2章　第3節　家庭科の内容　A 家族・家庭生活」の一部である。二つの［　　］に共通してあてはまる語を答えよ。

> (4) 家族・家庭生活についての課題と［　　］
> ア　日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、よりよい生活を考え、計画を立てて［　　］できること。

問2　次の衣服の取り扱い表示とその意味の組み合わせとして適切なものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A

…… 洗たく機で洗ってはいけない。手洗い時液温は40℃以下。

B …… 日なたのつり干しがよい。

C …… アイロンは150℃以下の温度でかける。

D …… 平干しがよい。

**第9問題　体育科について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領「第2章　第9節　体育　第2 各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕1 目標」の一部である。［　　］にあてはまる語句を、A～Dから一つ選び、記号で答えよ。

> (3) 各種の運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に留意したりし、［　　］運動をする態度を養う。また、健康の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

A　意欲的に　　B　自己の最善を尽くして　　C　最後まで努力して　　D　成果を求めて

問2　指導要領解説「体育編　第2章　第2節　各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕2 内容　G 保健 (1) 健康な生活」で指導する、主体の要因と周囲の環境の要因をA～Eからすべて選び、それぞれ記号で答えよ。

A　運動をする　　B　部屋の明るさを調節する　　C　睡眠をとる
D　部屋の換気を行う　　E　休養をとる

問3　指導要領解説「体育編　第2章　第2節　各学年の目標及び内容〔第3学年及び第4学年〕2 内容　A (1) ア　体ほぐしの運動」における、運動が苦手な児童への配慮の例として適切なものをA～Dから二つ選び、記号で答えよ。

A　心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、気持ちや体の変化を表す言葉を示したり、問いかけたりし、自己の心や体の変化に合った言葉のイメージができるようにするなどの配慮をする。

B　心や体の変化に気付くことが苦手な児童には、表情を表す絵や感情を表すカードを示し、自己の心や体の変化のイメージができるようにするなどの配慮をする。

C　友達と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童には、ペアやグループの組み方を考慮し、安心して活動に取り組めるようにするなどの配慮をする。

D　仲間と関わり合いながら運動をすることが苦手な児童には、協力や助け合いが必要になる運動を仕組み、仲間と共に運動をすることのよさが実感できるよう言葉がけをするなどの配慮をする。



2025 kyosai-guild.jp

第10問題　外国語科について、次の問に答えよ。

問１　次は、指導要領解説「外国語活動・外国語編　第２部　外国語　第２章　外国語科の目標及び内容　第１節　外国語科の目標」の一部である。［　ア　］にあてはまるものをＡ～Ｃから一つ選び、記号で答えよ。

(2) ［　ア　］などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

Ａ　児童の発達段階やコミュニケーション力

Ｂ　コミュニケーションを行う目的や場面、状況

Ｃ　語彙や文法等の知識やこれまでの経験

問２　次は、指導要領解説「外国語活動・外国語編　第２部　外国語　第１章　総説　２ 外国語科導入の趣旨と要点 (2) 改訂の要点 ① 目標」の一部である。［　イ　］、［　ウ　］にあてはまる語句を答えよ。

今回の改訂では、小学校中学年に新たに外国語活動を導入し、三つの資質・能力の下で、英語の目標として「聞くこと」、「話すこと［やり取り］」、「話すこと［発表］」の三つの領域を設定し、音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成した上で、高学年において「［　イ　］」、「［　ウ　］」を加えた教科として外国語科を導入し、五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。



2025 kyosai-guild.jp

**第11問題　特別の教科 道徳について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第2 内容」で扱う項目である。〔第3学年及び第4学年〕で「C 主として集団や社会との関わりに関すること」に示されている内容項目をA～Dから二つ選び、記号で答えよ。

A　友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。

B　働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。

C　誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。

D　他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。

問2　次は、指導要領「第3章 特別の教科 道徳 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3 (1)、(2)」の一部である。後の①、②に答えよ。

> (1) 児童の発達の段階や特性、地域の実情等を考慮し、多様な教材の活用に努めること。特に、生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、［ア］への対応等の現代的な課題などを題材とし、児童が問題意識をもって［イ］に考えたり、感動を覚えたりするような充実した教材の開発や活用を行うこと。
> (2) 教材については、教育基本法や学校教育法その他の法令に従い、次の観点に照らし適切と判断されるものであること。

① ［ア］、［イ］にあてはまる語句をA～Fから選び、記号で答えよ。

A　国際化　　B　防災・防犯　　C　情報化　　D　多面的・多角的　　E　教科横断的　　F　探究的

② (2) の観点として適切でないものをA～Cから一つ選び、記号で答えよ。

A　児童の発達の段階に即し、ねらいを達成するのにふさわしいものであること。

B　人間尊重の精神にかなうものであって、悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題も含め、児童が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられるものであること。

C　科学的、論理的に物事を捉え考察し、視野を広げるのに役立つものであること。

**第12問題　総合的な学習の時間について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領「第5章 総合的な学習の時間 第1 目標」の一部である。［ア］～［ウ］にあてはまる語をA～Iから選び、記号で答えよ。

> (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる［ア］を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。
> (2) 実社会や実生活の中から［イ］を見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
> (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、［ウ］のよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

A　概念　　B　最適解　　C　認識　　D　改善点　　E　対立点　　F　問い

G　個性　　H　友達　　I　互い



2025 kyosai-guild.jp

問2　指導要領解説「総合的な学習の時間編　第7章　第3節　1」では、学習過程を探究的にするためのポイントが示されている。そのポイントとして適切でないものをA～Dから一つ選び、記号で答えよ。

A　児童が自ら課題をもつことが大切であり、教師の意図的な働きかけは控えるようにする。

B　体験活動を適切に位置付けていくだけではなく、体験で獲得した情報をレポートなどで言語化して、対象として扱える形で蓄積するように配慮する。

C　情報を整理・分析することを意識的に行うために、「考えるための技法」を意識させるようにする。

D　まとめ、表現する場面では、伝えるための具体的な方法を身に付けるとともに、それを目的に応じて選択して使えるようにする。

**第13問題　特別活動について、次の問に答えよ。**

問1　次は、指導要領解説「特別活動編　第2章　第1節　1　特別活動の目標（2）」の一部である。［ア］～［ウ］にあてはまる語句の組み合わせとして適切なものをA～Fから一つ選び、記号で答えよ。

「［ア］としての見方・考え方」を働かせるということは、各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい［イ］の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び［ウ］に向けた実践に結び付けることである。こうした「見方・考え方」は特別活動の中だけでなく、社会に出て生活していくに当たっても重要な働きをする。

| | ア | イ | ウ |
|---|---|---|---|
| A | 集団や社会の形成者 | 相互関係 | 自己の実現 |
| B | 集団や社会の形成者 | 人間関係 | 適応 |
| C | 国家や社会の形成者 | 相互関係 | 自己の実現 |
| D | 集団や社会の形成者 | 人間関係 | 自己の実現 |
| E | 国家や社会の形成者 | 人間関係 | 適応 |
| F | 国家や社会の形成者 | 相互関係 | 適応 |

問2　指導要領解説「特別活動編　第2章　第1節　1　特別活動の目標（3）」の「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」では、四つの集団活動が取り上げられて説明されている。学級活動、児童会活動とともに、説明されている他の二つの集団活動は何か、その活動の名称を答えよ。



2025 kyosai-guild.jp

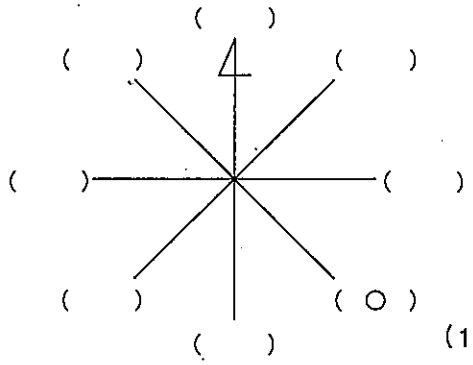
令和５年度　解答例

| 小　学　校 | 1／3枚中 |
|---|---|

第１問題（国語）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 問１ | ア | D<br>（１点） | イ | B<br>（１点） |
| 問２ | ウ | C<br>（２点） | エ | B<br>（２点） |
| 問３ | （1） | D<br>（２点） | （2） | 尊敬語<br>（２点） |
| 問４ | 事実と感想、意見とを区別して書く。<br>（３点） | | | |
| 問５ | A<br>（２点） | | | |

第２問題（社会）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 問１ | ア | C<br>（１点） | イ | H<br>（１点） | ウ | E<br>（１点） |
| 問２ | （1） | ①<br> <br>（２点） | | （2） | |  <br>（１点） |
| | | ②<br>畑<br>（１点） | | | | |
| 問３ | （1） | C<br>（２点） | | | | |
| | （2） | 過去に県内で発生した地震災害や風水害など。<br>（３点） | | | | |
| 問４ | ハザードマップ<br>（２点） | | | | | |



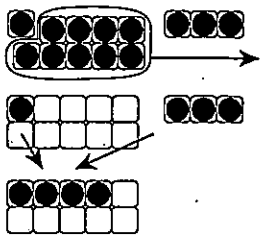
2025 kyosai-guild.jp

令和５年度　解答例

| 小　学　校 |
|---|



第３問題（算数）

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問１ | （１） | ア | B<br>（２点） | イ | F<br>（２点） | （２） | C<br>（２点） |
| 問２ | （１） | ウ | A<br>（２点） | | | | |
| | （２） | 13個のブロックの10個のかたまりから９個をとると残りは１個となる。<br>残った１個とばらの３個をあわせると残りは４個になる。<br>  <br>（３点） | | | | | |
| 問３ | エ | C<br>（２点） | オ | E<br>（２点） | | | |

第４問題（理科）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 問１ | （１） | B<br>（２点） | （２） | A<br>（２点） |
| 問２ | （１） | エ | D<br>（２点） | |
| | （２） | 空気中の酸素の体積の割合が減ると、ろうそくが燃えなくなり、火が消える。　（３点） | | |
| 問３ | A<br>（２点） | | | |
| | 理由：てこをかたむけるはたらき（おもりの重さ×支点からの距離）が左側のほうが大きくなったため。<br>（３点） | | | |

第５問題（生活）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 問１ | ア | E<br>（１点） | イ | A<br>（１点） |
| 問２ | B<br>（２点） | | | |

第６問題（音楽）

| | |
|---|---|
| 問１ | 音楽の構造<br>（２点） |
| 問２ | D<br>（２点） |



2025 kyosai-guild.jp

令和５年度　解答例

| 小　学　校 | 3／3枚中 |
|---|---|

第７問題（図画工作）

| | |
|---|---|
| 問１ | 造形遊び<br>（２点） |
| 問２ | イ<br>（２点） |

第８問題（家庭）

| | |
|---|---|
| 問１ | 実践<br>（２点） |
| 問２ | C<br>（２点） |

第９問題（体育）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 問１ | C<br>（１点） | | | |
| 問２ | 主体の要因 | A、C、E<br>（２点） | 環境の要因 | B、D<br>（２点） |
| 問３ | A<br>（１点） | C<br>（１点） | | |

第10問題（外国語）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 問１ | ア | B<br>（１点） | | |
| 問２ | イ | 読むこと<br>（２点） | ウ | 書くこと<br>（２点） |

（※イ、ウは順不同）

第11問題（道徳）

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 問１ | B<br>（１点） | | D<br>（１点） | | | | |
| 問２ | ① | ア | C<br>（１点） | イ | D<br>（１点） | ② | C<br>（１点） |

第12問題（総合的な学習の時間）

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 問１ | ア | A<br>（１点） | イ | F<br>（１点） | ウ | I<br>（１点） |
| 問２ | A<br>（２点） | | | | | |

第13問題（特別活動）

| | | |
|---|---|---|
| 問１ | D<br>（２点） | |
| 問２ | クラブ活動<br>（１点） | 学校行事<br>（１点） |



2025 kyosai-guild.jp